

## 久留米大学を受診した患者さんへ

「IgA 腎症における病理組織分類（Oxford 分類）を用いた予後予測モデルの構築」の研究に使用する試料(情報)について

この研究では、久留米大学を受診し、検査の際に採取した以下の試料(情報)を使用します。

- 1) 期間：2012（平成 24）年 1 月から 2015（平成 27）年 9 月
- 2) 受診科：腎臓内科 または 複数科にわたるもの
- 3) 対象疾患名：IgA 腎症
- 4) 使用する試料（情報）：過去採取した血液、尿、腎組織

あなたの試料を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申しあげます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

**研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。**

**ご了承くださいますよう、お願い申し上げます。**

- 1) 研究組織：所属：久留米大学 腎臓内科

研究代表者：助教 花井 麻友子

研究分担者：久留米大学 腎臓内科 講師 小池 清美

久留米大学 腎臓内科 准教授 上田 誠二

久留米大学 腎臓内科 教授 深水 圭

順天堂大学 腎臓内科 准教授 鈴木 祐介

順天堂大学 腎臓内科 助教 禾 千絵子

京都大学環境安全保健機構 健康科学センター 助教 松崎 慶一

University of British Colombia, Faculty of Medicine,

Department of nephrology Assistant Professor Sean Jacob Barbour

University of Toronto, Division of Nephrology, Department of nephrology

Professor Daniel Cattran

- 2) 研究の意義と目的：

IgA 腎症は 20 年以上の経過で約 4 割が末期腎不全に至る予後不良の疾患です。このため、腎生検で IgA 腎症と診断された際に「腎臓がどのくらいの確率で悪くなるか」について正確に予測することが重要ですが、正確な予測は未だ出来るようになっていません。

この研究は、腎臓の組織を Oxford 分類という方法で分類し、それを元に「腎臓がどのくらいの確率で悪くなるか」を判定する式を作成し、様々な施設の結果とあわせて検討する事が目的です。

- 3) 研究の方法：

2012 年 1 月 1 日から 2014 年 9 月 30 日までに久留米大学腎臓内科で腎生検を行い IgA 腎症と診断された患者さんについて、診療録（病理組織所見、入院/外来カルテ（入院/外来カルテについては 2015 年 9 月末日までのデータを使用））を用いた調査を行います。この調査により、患者さんに新たな検

研究番号 15159

査や診療費が発生することはありません。本研究は、久留米大学倫理委員会の承認を得て実施されています。

4) 研究期間：

平成 27 年 10 月倫理委員会承認後～平成 28 年 9 月 30 日

5) 上記の試料（情報）の使用を選定した理由：

IgA 腎症における病理組織分類（Oxford 分類）を用いた予後予測モデルの構築を行う上で必要であるため。

6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：

データ収集の際、あなたの診療情報については氏名などの個人情報が用いられることはなく削られ、代わりに新しく符号がつけられます（匿名化）。あなたとこの符号とを結びつける対応表は、久留米大学腎臓内科において管理担当者が厳重に保管します。

7) 研究成果の発表の方法：

研究の成果は専門の学会や学術雑誌に発表を行います。個人情報が外部に公表されることは一切ありません。

8) 利益相反：本研究は特定企業、施設、病院からの資金援助はありません。

9) 事務局、問い合わせ、連絡先：

花井 麻友子            久留米大学病院 腎臓内科 助教  
830-0011      福岡県久留米市旭町 67 番地  
TEL 0942-35-3311      FAX 0942-32-6278